

アートラボ 2022 第Ⅲ期

荒木優光 ダンスしないか？

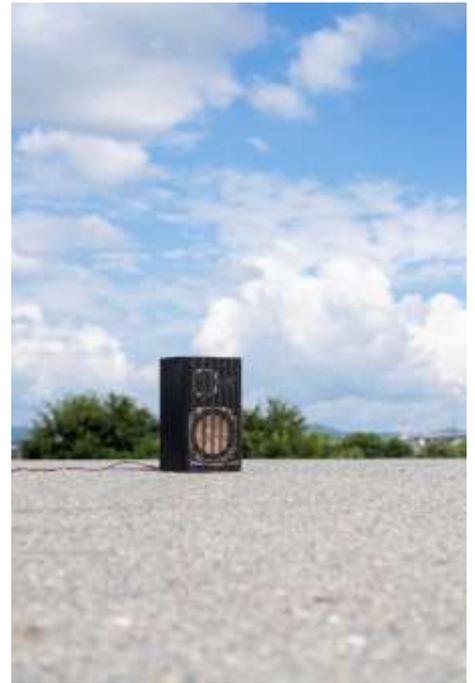
会期：2022年 11月 3日（木・祝）～ 2023年 1月 29日（日）

会場：2F アートラボ

長野県立美術館本館 2 階の「アートラボ」は、視覚以外の感覚も使った鑑賞が可能な「ラボラトリー（実験室）」となることを目指しています。2022 年度の第Ⅲ期展覧会では、荒木優光（あらきまさみつ）を紹介します。

荒木は近年、「聴く場を作る」ことを基盤として、視聴環境そのものを作品として発表してきました。音だけでなく視聴環境自体を構成することは、荒木にとってのひとつの作曲行為でもあります。そのなかで、何をどのように聴き・体感するのかということ、制作の基点として持ち続けてきました。

本展で荒木が手掛けるのは、「中古品・遺物」をテーマにした音楽劇インスタレーションです。中古の家具やレコード、調度品が配置された空間に、男女の声とピアノ演奏による音声が再生されます。遺物や誰かの記憶をめぐる展開される音楽劇のうちに、ものや人の関係性といった様々なサイクルが描かれます。



荒木優光「ダンスしないか？」2022年
撮影：加納俊輔

展覧会概要

『アートラボ 2022 第Ⅲ期 荒木優光 ダンスしないか？』

会 期：2022年 11月 3日（木・祝）～2023年 1月 29日（日）

休 館 日：水曜日（ただし 11/23（祝）は開館）、11/24（木）、年末年始（12/28-1/4）

開 館 時 間：9:00～17:00（展示室入場は 16:30 まで）

観 覧 料：無料

会 場：長野県立美術館 2F アートラボ

主 催：長野県、長野県立美術館

展覧会担当：茂原奈保子・青山由貴枝

お問い合わせ・資料リクエスト先

長野県立美術館 広報・マーケティング室

TEL：026-232-0052 / FAX：026-232-0050 E-MAIL：nam-pr@naganobunka.or.jp

作家紹介

■荒木優光（あらかまさみつ）

1981年山形県生まれ。音楽やフィールドワークを起点として独自の音場空間を構築する。近年は視聴覚空間の多様性を踏まえ、新たなフェーズとしての「再生」を軸として実践と考察を進める。発表媒体はシアターピースやインスタレーションなど多岐にわたる。近作に、個展「わたしとゾンビ」（京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル、2020年）など。2013年初演の『パブリックアドレス - 音場』が



©be borgers

2021年、クンステン・フェスティバル・デザール（ベルギー）に招聘された。また、サウンドデザイナーとしてのコラボレーションも多く、アーティストコレクティブ ARCHIVES PAY、音楽グループのメンバーとしても活動。2022年度セゾン文化財団セゾン・フェロー。

展示作品

《Cycles》2022年

- ・レイモンド・カーヴァーの短編小説『ダンスしないか?』から着想を得た、「中古品・遺物」をテーマとした音楽劇インスタレーション作品。
- ・中古の家具や調度品が配置された空間に、それらにまつわる記憶をめぐる音声が重なる。
- ・中古品は、荒木が長野県内のリサイクルショップで収集したもの。
- ・音声は男女の声とピアノ演奏によって構成されている。
→空間を構成する「物」と「音声」は互いに補完し合う関係にある。
- ・展示物にはすべてタイヤが取り付けられ可動式となっている。会期中にイベントとして展示室を飛び出し、別の場所での再生も行う。（イベントの詳細は調整中です。）

過去作品



《SWEET MEMORIES Episode 1-60》2021年
撮影：三吉史高



《サウンドトラックフォーミッドナイト屯 Soundtrack for
Midnight TAMURO》2021年
荒木優光『サウンドトラックフォーミッドナイト屯』(2021)
撮影：井上嘉和 提供：KYOTO EXPERIMENT



《Sami Khedi Ra Biot (microcosm)》2019年
撮影：平林岳志

- ・新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により、展覧会開催延期や休止となる場合があります。
- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、当日37.5度以上の熱がある場合や体調が優れない場合の作品鑑賞はご遠慮ください。

お問い合わせ・資料リクエスト先

長野県立美術館 広報・マーケティング室

TEL：026-232-0052 / FAX：026-232-0050 E-MAIL：nam-pr@naganobunka.or.jp